

■尾崎紅葉 新聞小説で一世を風靡、(硯友社)率いて後進の育成にも努めたが、「金色夜叉」連載終了まもなく、早世した。

おざきこうよう

大政奉還・・・1867＝ 江戸芝中門前町で、代々の商家で牙彫の名人で素人幫間でもある奇人尾崎谷齋の子に生まれる。

明治維新・・・1868＝ 1歳：

学問のすすめ1872＝ 5歳：母を亡くし、以後、母方の実家で養育され、

明治6年政変 1873＝ 6歳：
寺子屋梅泉堂(現在の御成門小)を経て、

三つの反乱・1876＝ 9歳：

少年時から文筆を好み、

府立一中に進むも、中退し、岡千仞に漢学を、石川鴻斎に漢詩を、三田英学校で英語を学ぶなどして、

明治14年政変1881＝14歳：

岩倉具視没・1883＝16歳：大学予備門に入り、

内閣発足・・・1885＝18歳：_学友石橋思案や山田美妙らと文学結社(硯友社)を興し、同人誌(我楽多文庫)を発行。

初めは戯作的な文章を書いたが、

帝国憲法発布1889＝22歳：*「新著百種」第1号の「二人比丘尼色懺悔」が出世作となり、坪内逍遙、幸田露伴とともに(読売新聞)に迎えられ、同社の新聞小説を書いて職業作家の地位を確立する。

帝国議会始・1890＝23歳：東大中退。「伽羅枕」、

足尾鉉毒始・1891＝24歳：結婚。「むき玉子」、

大本教・・・1892＝25歳：*「三人妻」など当代風俗小説によって人気を呼び、「読売の紅葉か、紅葉の読売か」とまで言われるなか、

郡司千島探検1893＝26歳：長男が誕生するも夭折。「心の闇」連載。

日清戦争始・1894＝27歳：長女が誕生。父が死去。

_古典や西洋文学の摂取、言文一致体など、次々と試作して時代への適合に精進し、

白馬会・・・1896＝29歳：次女が誕生。*「多情多恨」は写実主義の傑作と激賞され、

八幡製鉄始・1897＝30歳：_「金色夜叉」の連載開始、

Bushidou・・・1899＝32歳：健康を害し、

ピアノ国産化・1900＝33歳：三女が誕生。

田中正造直訴1901＝34歳：次男が誕生。修善寺へ療養に行くなどしながら、

教科書疑獄・1902＝35歳：*この年まで書き続け、力作長編で満天下をわかせたが、読売を退社し(二六新報)に入ってまもなく、

日比谷公園・1903＝36歳：胃癌で_没した。

毀誉褒貶あるが、作家の経済生活の確立に腐心し、小栗風葉や泉鏡花らの後進も育てたことは評価すべきであろう。秋声会の俳人で句集もある。